

第3学年選択 音楽科学習指導案

- 1 題材 「和楽器で創作しよう」
 教材 「かごめかごめ」 わらべ唄 「夕焼け小焼け」 作詞 仲村雨紅 作曲 草川信作
 「ノヴェンバーステップス」 武満徹

2 指導観

○ 日本音楽は、日本の美しい自然や風土の影響を受けて、西洋音楽とは異なる独特な音楽の世界をつくり出している。和楽器の箏・三味線・尺八は日本の代表的な楽器で、日常生活でも耳にすることが多く、それぞれの独特な奏法や音色があり味わい深い。こうした楽器を演奏したり、聴いたりすることから、和楽器の音色の美しさや響きの豊かさ、日本音楽の特徴やよさを見直し、表現の幅を広げ、表現することのおもしろさを感じ取ることができると思われる。

本題材では、和楽器の箏・三味線・尺八とのそれぞれの音色の美しさや響き、特性を味わい、わらべ唄や童謡を通して和楽器による創作活動をするをねらいとしている。その際、「かごめかごめ」と「夕焼け小焼け」の2曲を創作のベースとする。わらべ唄や童謡は昔から歌い継がれ、私たちが幼い頃から遊びに取り入れていたものであり、この2曲も生徒になじみのある曲であるため創作のイメージをもちやすい。また、和楽器の演奏においても、「夕焼け小焼け」は5音、「かごめかごめ」においては4音と音の数が少なく、音域も狭く半音がないため、使い慣れない楽器であっても奏法が比較的容易である。日本音楽で大切にしたい和楽器の大切な響きや温かさを子どもたちに伝えたい。

○ 本コースを選択している生徒は女子20名である。その20名ほとんどの生徒が音楽第1希望でこのコースを選択している。事前調査では、音楽については全員が「好き」と答えた。

日本の音楽については、興味・関心が全体的に低く、三味線や尺八など楽器を実際に触ったことも見たこともない生徒がほとんどで、普段日本の音楽を耳にすることもないと答えている。しかし、昨年の授業や文化発表会で箏を実際に演奏したり、津軽三味線の演奏を聴いたりしたことで、日本音楽に親しみを感ずるようになった。

○ 指導にあたっては、実際に箏・三味線・尺八を体験したり、あるいは、視聴したりすることによって、楽器独自の響きやその特性を味わわせたい。また、曲の構成をとらえ、3種類の楽器の音素材を使い、創造的に曲を表現できるようにさせたい。そのためまず、楽器の持ち方、姿勢など基本的なことをゲストティーチャーから学び、実際に楽器に触れる体験をさせる。ここでは、それぞれの和楽器の音色や響きに関心をもたせ、音の魅力を感じ取らせた後、興味・関心をもった楽器を1つ選択する。次に、自分たちの好きな楽曲を選び、曲ごとのグループに分かれて練習する。そして、和楽器の音の響きや奏法を生かし、装飾、合いの手、速度などを工夫して創作する。その際、五線譜、図形譜などを使って、記録ができるようにする。さらに、生徒が互いに協力し合いながら、グループで互いに聴き合ったり、見合ったりすることで新しい工夫を発見させる。最後に、グループごとの発表を行い、まとめとする。実際に和楽器に触れる体験を通して、日本の音楽を自分自身のものとして感じ、楽しむことができる力を身に付けさせたい。

3 目標分類表

内容	観点	関心・意欲・態度	表現の技能	感受・表現の工夫	鑑賞の能力
○和楽器の楽しみ		○和楽器の音や奏法に関心をもって聴いたり、それを生かした表現をすることに意欲的である。		○和楽器の音色や奏法などの特徴を理解し楽曲の構成をとらえて聴き取っている。	
○和楽器の演奏					
○和楽器による創作			○和楽器の音色や奏法などの特徴を感じ取り、それらを生かして表現を工夫している。		
		○自分たちの表現をつくりあげようとする。	○創作した音や音楽を表現し、五線や図形を使って記譜する技能を身に付けている。		

4 計画(8時間)

配時	学習活動・内容	留意点	評価規準 <評価の方法>
2	<p style="text-align: center;">和楽器で創作しよう</p> <p>ゲストティーチャーから和楽器について学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの楽器の音色 基礎的な奏法 〔三味線〕持ち方、姿勢、ばちさばき 〔尺八〕構え方、口唇の当て方、吹奏方法 <p>それぞれの楽器に触れながら、和楽器の中で興味・関心のある楽器を選択する</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">三 味 線</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">尺 八</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">箏</div> </div> <p>それぞれの楽器で曲ごとのグループに分かれて練習、演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「夕焼け小焼け」 「かごめかごめ」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ゲストティーチャーによる三味線、尺八の演奏から音色や奏法の特徴を感じ取るようにする。 ○自分の興味・関心・技能に応じて選択できるように試しの場を設定する。 ○楽器の決定が生徒の興味・関心や技能にふさわしいものになるよう相談活動を行う。 ○生徒の希望で楽器を選択し、楽曲でグルーピングをする。2年次で学習した箏も取り入れるようにする。また、曲も自分たちの興味・関心があるものを選ぶようにする。 ○楽器のバランスなどを考えてグルーピングするように助言する。 ○正しい姿勢で楽器を構えるように指示する。 ○曲の特徴やイメージを明確にさせるため、原曲のCDや三味線や尺八の入門ビデオを参考にして、主体的に練習できるように機材を準備する。 ○和楽器それぞれの本来の音が出せるように支援する。 ○音が出にくいときには個別に支援する。 	<p>関：和楽器の音の特徴に関心をもって聴いたり、それを生かした表現をすることに意欲的である。 <様相チェック、発言チェック></p> <p>感鑑：和楽器の音色や奏法の特徴を理解し、楽曲の構成をとらえて聴き取っている。<様相チェック、学習の手引き分析></p>
3	<p>グループ活動を通して、曲に合った表現の工夫ができるように話し合い、グループのオリジナル曲を創作し、表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形譜、記譜の仕方 奏法 装飾、合いの手、速度、リズム、前奏、後奏などの工夫 <p style="text-align: center;">中間発表</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ゲストティーチャーの演奏から感じ取ったり、説明を聴いたりしたことから自分たちの演奏を工夫するよう伝える。 ○曲のイメージをグループで話し合い、意見交換する場を設定する。 ○和楽器の音色や音楽の諸要素の働きに注意させる。 ○イメージは五線や楽譜、図形譜などを使って記録できるようにする。 ○イメージした演奏を録音し、聴き返して確認できるように機器を準備し、見直しができるように促す。 ○楽譜を提示し、実際のCDを聴きながら、図形譜を説明する。 ○演奏だけではなく、練習した内容や工夫した点、難しかった点についても発表できるよう指示する。 ○他のグループの演奏のよさを聴き取るよう指示する。 ○各グループの表現の工夫に気づくよう助言する。 	<p>感表：和楽器の音色や奏法の特徴を感じ取り、それらを生かして表現を工夫している<表現内容チェック、演奏チェック></p>
1	<p style="text-align: center;">創作発表をし、学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 和楽器の演奏の味わい 和楽器の特性やよさ 創作表現の工夫と記録 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちが合奏したものの録音を聴き返し、楽譜などに記録しながら、さらに発展させていくよう促す。 ○自分たちが録音したものを聴き返し、全体の響きのバランスを考えさせる。 ○前回の学習より、他のグループの演奏の工夫に気づき、演奏のよさを聴き取りよう指示する ○学習の手引きに、和楽器のよさについて、感じたことを記入するように指示する。 	<p>関感：自分たちの表現をつくりあげようとする<様相チェック、ワークシート分析></p> <p>表感：創作した音や音楽を、五線や図形を使って記譜する技能を身に付けている。<様相チェック、楽譜分析></p>

本時
7
／
8

(1) 本時の指導観

これまでの学習で、ゲストティーチャーを招き、和楽器を体験している。和楽器の音色や響きを感じ取り基本的な奏法を身に付けることができるようになった。

本時は、和楽器の基本的な奏法を取り入れ、音の響きやその組み合わせを生かし、自分のイメージを表現させたい。さらに、日本の楽曲の雰囲気を受けて、曲の前奏や後奏なども創作できるようにする。その際、五線譜や図形譜を使って、工夫して記録することができるようにさせる。また、グループに分かれ、自分たちが考えた表現を聴き合ったり、見合ったりすることで和楽器の音色や響きを発見させる場になるようにしたい。

(2) 主眼 ○ 和楽器の音素材や奏法に興味・関心をもち、楽曲をオリジナルに編曲する。

(3) 準備 ① 学習の手引 ② VHS ③ VHSプレーヤー ④ ビデオカメラ

⑤ 楽器（箏、三味線、尺八） ⑥ 楽譜 ⑦ 譜面台

(4) 過程

学習活動・内容	留意点・評価						
<p>0 各楽器の準備をする。 ・チューニングなど</p> <p>1 前時までの授業の確認をし、本時のめあての確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 自分たちの「夕焼け小焼け」「かごめかごめ」をつくろう </div> <p>2 各グループに分かれ練習する。 ・個人練習 ・グループ練習 ・創作表現の記録</p> <p>3 「かごめかごめ」「夕焼け小焼け」を演奏する。 ・グループごとに発表</p> <p>4 本時のまとめをする。</p> <p>5 次時の学習について知る。</p>	<p>○自分の楽器の準備をし、終わった人は他の人を手伝う。 ○自分たちでチューナーを使って音あわせをする。 ○記録した楽譜や模造紙などを配布しておく。</p> <p>○前回演奏したビデオを見ながら、課題を出し合って、さらに練習して改善していく。 ○それぞれのグループごとの課題を発表させ、板書する。 ○課題を出す際、自分たちの改善点は見かけだけではなく、楽器そのものの音や奏法など中身にふれるよう助言する。</p> <p>○練習計画をリーダーが立てるように声かけをする。 ○各グループに分かれ活動させる。その際、グループを巡回しながら奏法を生かした装飾音、合いの手、前奏、後奏、速度、リズムなどの工夫がなされているか助言する。 ○前回演奏し、録画したものを自由に見れるように準備しておく。 ○図形譜を使って自分の思いを楽譜に表現できるよう小節を区切った五線譜に記入するように指示する。</p> <p>○学習した成果を発表するとともに、他のグループの工夫された表現を聴き取るように助言する。 ○グループによって選んだ楽器や演奏方法などの違いに注意しながら聴くように助言する。 ○演奏だけでなく、工夫点や難しかったところも発表するように指示する。 ○他のグループの発表を聴かせることによって意欲を持たせる。</p> <p>○発表後、他のグループの工夫を認めたり、アドバイスをし合ったりするよう助言する。</p> <p>◆感表 和楽器の音色や奏法の特徴を感じ取り、それらを生かして表現しようとしているか <表現内容チェック、演奏チェック></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">A</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;">○和楽器の奏法の特徴を生かし、曲にふさわしい音色や奏法を工夫して表現しようとしている。</td> <td style="padding: 5px;">○和楽器の奏法を身に付け、美しい音色を工夫して表現しようとしている。</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;">○Cの生徒への手だて 友だちとアドバイスをし合ったり、録音を聴いて表現を見直すように指示する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>○友だちのどんなところがよかったか、工夫している点や効果的な表現などできるだけ詳しく学習の手引に記入するよう指示する。 ○本時の活動を振り返り、自己評価表に本時の感想を記入するよう指示する。 ○記入後、練習や演奏の取組の感想を励ましの言葉を含めて伝える。</p>	A	B	○和楽器の奏法の特徴を生かし、曲にふさわしい音色や奏法を工夫して表現しようとしている。	○和楽器の奏法を身に付け、美しい音色を工夫して表現しようとしている。	○Cの生徒への手だて 友だちとアドバイスをし合ったり、録音を聴いて表現を見直すように指示する。	
A	B						
○和楽器の奏法の特徴を生かし、曲にふさわしい音色や奏法を工夫して表現しようとしている。	○和楽器の奏法を身に付け、美しい音色を工夫して表現しようとしている。						
○Cの生徒への手だて 友だちとアドバイスをし合ったり、録音を聴いて表現を見直すように指示する。							